

平成26年度国立天文台研究集会開催報告書

平成27年 1月20日

国立天文台長 殿

代表者	氏 名	(ふりがな) かわばた こうじ					
		川端 弘治 					
	所属・職	広島大学・宇宙科学センター・准教授					
	電話	082-424-5765	E-mail	kawabtkj@hiroshima-u.ac.jp			
研究集会名	2014年度光学赤外線天文連絡会シンポジウム：光赤外分野の展望～将来計画検討書中間報告会						
開催期間	2014年 9月 8日 ～ 2014年 9月 10日						
開催場所	国立天文台 すばる棟 大セミナー室						
参加人数	約120名						
研究集会の概要	今年度のシンポジウムは、前年度のシンポジウムにおける議論の結果に沿って発足した「将来計画検討書編集委員会（編集委員長：松原英雄）」および各担当班の活動の進捗についてレビューしてもらい、コミュニティで広く議論する中間報告会とすることを目的に据えた。この将来計画検討書は、2005年に発行された「2010年代の光赤外天文学」に倣いつつも、「2010年代…」で対象としていた大規模計画だけではなく、昨今議論されている中規模計画までを対象とした、包括的な計画書であり、2015年夏頃に発行することを目標として編集作業が行われているものである。 シンポジウムの1日目にセッション1（イントロダクション；講演数2）、セッション2（サイエンス班中間報告；講演数13）、セッション3（地上班中間報告；講演数7）を実施、2日目にセッション4（スペース班中間報告；講演数6）、セッション5（サイエンス分科会）を実施し、3日目にセッション5の続き（サイエンス全体会および議論）とセッション6（将来計画に関する総合討論）を実施した。プログラムと講演スライドが光赤天連のホームページに掲載されている。 URL: http://gopira.jp/sym2014/program.html 今回のシンポジウムの特徴は、2日目の半分以上の時間をサイエンス分科会に当てたことである。サイエンスカテゴリー別に5か所の会場に分散して、検討の方向性について少人数でより深く踏み込んだ議論をまず行った。さらに、カテゴリー間でのテーマの調整を行うことができ、また、これまで議論が足りなかったものの今後重要度がさらに増すと考えられる項目、例えば重力波イベントの可視対応天体探索や、多波長連携観測を主体とする多分野にわたる研究の枠組みを、光赤天連としてどう支援するかについて踏み込んだ議論を行うことができた。また、国際共同の枠組みが変更になったSPICAをはじめとしたスペース計画に関する議論も相応の時間を充てて行った。						

研究集会の成果	本シンポジウムは、10年ぶりの改訂に取り掛かった「光学赤外線天文分野 将来計画検討書」の中間報告会と位置づけ、編集委員会や各検討班長の協力を得て、それぞれの体制や検討内容に関する進捗を報告してもらい、検討書のまとめ方について皆で議論することを目標に据えた。一般講演は設けずに、世話人で講演をアレンジして実施した。講演者のリストが当初よりはっきりしていたため、日程調整はある意味では進めやすかったが、やはり全員の都合が合う日程は無く、山形大学で開かれた日本天文学会秋季年会の直前という窮屈な日程での開催となった。それでも、前年を上回る120名ほどの参加に恵まれて活発な意見交換が行われた。 具体的には、以下のような点で進展があった。 ➤ サイエンス分科会では、カテゴリ別に参加者を5か所の会場に分散させて、専門分野の近い人同士で検討状況についてより深く議論してもらうことができた。特に、検討班に属していない人々が意見を述べやすい環境を提供できたことは良かったと考えている。 ➤ 分科会の後、再び一堂に会して共通の問題点を議論する時間を設けた。特に、複数のサイエンス班にまたがって検討が進められていた重複したサイエンステーマを洗い出すことができ、どちらが担当するか調整が効率的に進んだ。 ➤ 班ごとの進捗を広く見渡すことができ、今後それぞれの班でどういった点について重点的に検討を進めるべきかの指針が得られたと思われる。 ➤ 検討書のまとめ方に深く関わるコミュニティの喫緊の課題（スペース計画、多波長・多モード連携研究など）について議論を深めることができた。特にスペース計画については、別途議論の場を設けることになった（実際、11/26に三鷹で別途シンポジウムを開催した）。 また、編集委員会事務局より検討書のフォーマット提供の予定なども報告され、検討書のまとめ方やスケジュールについて幅広く検討が進めることができ、中間報告会としての目的を果たすことができたと考えている。
その他参考となる事項 (希望事項も含む)	シンポジウムのプログラムと講演スライド、および議論メモを、以下の光赤天連のホームページで公開しています。 URL: http://gopira.jp/sym2014/program.html